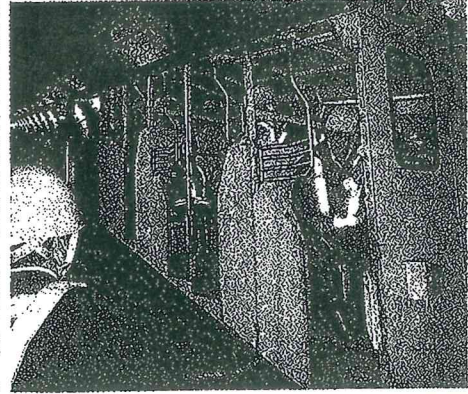


青函トンネルを視察 民主議員らJRに聞き取りも

青函トンネル内の旧吉岡海底駅側の施設を視察する民主党の国会議員ら（JR北海道提供）



JR津軽海峡線の青函トンネル内で4月、走行中の特急「スーパー白鳥34号」から白煙が出て、乗客が避難した事故を受け、民主党の国会議員らが11日、JR

北海道幹部への聞き取りやトンネル内施設の視察を実施した。

視察者は「次の内閣」国土交通部門会議の荒井聡衆院議員、田城郁参院議員、徳永エリ参院議員、逢坂誠二衆院議員ら。函館市若松町のJR北海道函館支社では、事故原因の調査状況と今後の安全計画について聞き取りを実施。トンネル内に移動し、4月の事故で乗客が脱出に使用した旧電飛海底駅と同様の設備がある旧吉岡海底駅で避難所やケールカーなど、約2時間半かけて視察した。

函館支社での会議冒頭、小山俊幸常務取締役総台企画本部長は「安全確立に向け取り組んでいる中、青函トンネル内でお客さまに避難していただくなど、大変ご迷惑をお掛けした」と陳謝した。会議後、荒井氏は「国鉄民営化から30年がたつが、民営化スキームに問題があったと国会でしっかりと議論する時期にきたのではないか」との認識を示した。（今井正一）

2015(H27).05.12 函館新聞

2015(H27).05.12 北海道新聞

政治メモ

◇民主議員が特急発煙のトンネル視察 民主党国土交通部門会議の荒井聡衆院議員ら同党の国会議員・道議計7人は11日、4月にJR北海道の特急が発煙トラブルを起こした青函トンネル内を視察し、同社社員から事故時の避難手順などについて説明を受けた。道選出の逢坂誠二衆院議員も出席し、旧吉岡海底駅の避難所などで、トンネル内に水がたまればポンプで外に排出されるなどと説明を受けた。荒井氏は取材に「これだけ安全対策を重ねても最後は人の問題。（JR北海道は）安全に対する社内風土を高めなければならない」と語った。